

出会い ふれあい 助け合い

# サロンあべの

VOL.199

## 思い出作りの 昼食会

〈サロン・あべの〉12月の出会い

平成14年12月7日(上)、〈サロン・あべの〉12月の出会いは、天王寺都ホテル17階にある日本料理店「松崎」での食事会でした。題して「思い出作りの昼食会」。今回お世話になった「松崎」は、見晴らしの良い、明るく落ち着いた雰囲気のあるお店です。



この日のお料理

この日の献立は、

まず先付け、かわいらしい器に盛られた料理が3種(白身魚芥子白和え、冬至和え、水菜と薄揚げ酢味噌和え)、3つの小鉢が飾り棚に乗って出てきました。次に上ぶたに蘭の小花が飾られた3段重が主膳として出てきました。

1の重はお造り  
カンパチやアオリイカのお造り。

2の重は洋菜  
黒豚のベーコン包み焼きとグリーンアスパラなどの温野菜。

3の重は煮物

丸大根風呂吹き(そぼろ味噌掛け)と、水菜の煮物など。

そして、お味噌汁と白いご飯、香の物など。

お料理が進むうち、テーブルでは、近況や今年一年を振り返っての話などが弾んで、場が和んでいきました。

デザートに袖のシャベットとコーヒーをいただきながらみなさんに「それぞれの思い出(2頁に掲載)を書いていたり、また、いつも〈サロン・あべの〉を応援していただいている大阪義肢の石原さんから景品の寄贈があり、お楽しみ抽選会をしたり、楽しくゆつくりとした時間を過ごしました。

当日は、あいにく冷たい雨が降る天気となりました。慌ただしい年の瀬の中、皆さんの笑顔に出会えた〈サロン・あべの〉でした。参加者17名(山村貴司)

# 思い出さん こんにちは



今年の食事は「思い出作り」ということにちなんで、皆さんに思い出や食事会の事など、思い出に書いていただきました。

♡一年ぶりやネ・・・

一年ぶりに七夕サマやネ・・・といいながら、なつかしい皆さまとの再会。楽しみにしていました。障害がよくはならないで、お互いに進んではいますが、心は明るく、元気で安心しました。どこにいても逢え

なくても、その場その場で元気で頑張りましょう。まだ、しばらくはお仕事頑張りたいと気持ちだけはりきっています。おいしいごちそうをいただき、楽しいひととき今年もごいっしょさせていただけただけ喜び、感謝です。また、お逢いできる日までお元気でネ。

岡賀寿子

♡ままごとみたい

本日は昼食会に参加させていただきました、ありがとうございます。都ホテル17階・高ビルで皆さんと交流ができてほんとうに楽しい昼食会でした。食べ物豪華な器に上品な盛り付け、まるでままごととしているみたいな感じでした。今日の思い出は、忘れないと思います。 小嶺佐栄子

♡「松崎」が好き

昨年の出会いの後、体調が悪く、一時はどうなることかと思いましたが、どうか回復しまして、今日こうして皆様にお会い出来まして感無量です。しかも、私の好きな「松崎」でごちそうをいただきました有り難うございました。 杉山蔦枝

♡忙しくって

ご無沙汰しております。仕事の方が忙しく、なかなかサロンの方には行けなくなり、申し訳なく思っています。今日は、やっと休みがとれ、皆さんに会える事が出来、うれしく思います。来年も忙しいとは思いますが、暇が取れば、サロンの方に行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。今年、お祖母ちゃんが95歳で永眠しました。いろいろな思い出が浮かんできます。それでは、また。 久木浩

♡皆さんに見習いたいです

今年は(サロン・あべの)の集会には出席できず、残念でしたが、雨の中、車いすの方や身体の不自由な方が元気で出席なさり、いろいろなお役をこなしていらっしやるのを見て心を打たれました。そして、私も頑張らなければとの決意を新たにいたしました。見晴らしのいいホテルでおいしいお食事を皆様とご一緒できたことは、何より素晴らしい思い出になりました。来年、新しい羊年、(サロン・あべの)の皆様のご健康とご多幸を祈りつつペンをおきま

す。本当に本日はありがとうございます。ごさいました。  
平沢邦子

♡ 姉上様、今後ともよろしく

今年1年、作業所から手を引き、少しは暇になりそうに思っていたのですが、それは、ごく初めの内でした。

でも、そんな生活の中、先月姉妹3人で淡路島へ旅行に行ってきました。

なぜそれが「おもしろい？」

実は、姉妹3人それぞれ自分たちの生活に追われ、こんな機会を持てなかったのです。

上の姉の勤続35年の記念に便乗させてもらったのですが、「これが大名旅行と言うものか」と納得。

「姉上、これからもよろしく」

かわいい妹より

と言うわけでした。

おわり

山本篤江

♡ 健康が一番

サロンの食事はいつも楽しみです。今年には病気をしてしまったので、行けるか心配

配だったのですが、参加出来たのでよかったです。来年は、今年の分以上に元気でいたいな。あみだくじのプレゼント、化粧ポーチが当たってしまったので、お化粧全然しない私ですが来年からイメーヂチェンジで、きれいにならなくてはならないのでしょうか？ 心配になってきました。「松崎」のお料理はおいしかったなあ。健康が一番です。

藤井さゆり

♡ はりはり

子供の頃、よく食卓にのぼったはりはり鍋。鯨の肉はポリユームがあつて柔らかく、水菜のシャキシャキ感とよく合つて冬の美味でした。コロが入っているとときもありました。今では考えられない贅沢をあの頃に戻つてもう一度味わつてみたい。

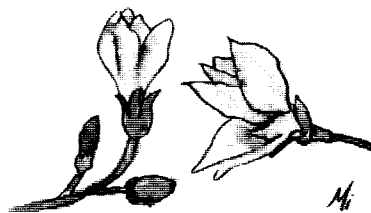
表谷恵美子

♡ 「旅」が思い出

今年もいろんなところへ旅行に行つたことが、やっぱり楽しい思い出です。

山村貴司

電話は早い、  
ファックスも  
Eメールもある  
けど、  
こころ伝わる  
サロンの絵はがき  
がいい。



サロンの絵はがき

五枚、組 一八〇円

♡初物を食べて長生き

「初物を食べると長生きできる」と聞かされたのは子どもの頃。初めての物や見慣れない物には手を出さなかった私に、祖母がいつも言っていました。いやいやでも一口食べれば、「長生きできるで」と嬉しそうに言ってくれました。お正月のお節料理は、それこそ初物ばかり。季節ごとに味わう生鮮食料品は生きてきた歳月の確認。が、食していない物も数多くあり、その中で興味を持ちつつ食べずにいた物に「ふぐ」があります。祖母は「食べる物があるのに、ふぐを食べんでも・・・」と言っていました。その言葉が忘れられず今日まできました、ところが今年の暮れ、母と買い物に出た時お互いの気持ちがあって、ささやかな定食の「ふぐ料理」を食べました。小皿のてっさはあっけなく食してしまいました。が、年越しや新年を確実に迎えられる気がしました。

♡厄払いできました

本日は、雲の上のレストランで食事をいただき、最高の一日でした。本年の悪いこ

とや、いやなことが吹っこんでしまいました。本日はたのしい一日でした。役員さん一同、皆様ありがとうございました。

石原栄

♡エコーは楽しかったなあ

楽しかった思い出は、ホテルエコーでの新年会でした。

倭栄司

♡来年も楽しみに

（サロン・あべの）の食事会、思えばいろいろなところへ行きました。あべのベルタが出来てすぐのところ、地下のレストランを借り切ったこともありました。改装オープンした近鉄百貨店のレストラン街に行つたことも。上六へ遠征した年もありました。今年は天王寺都ホテルでおいしくいただきました。はて、さて、来年は・・・今年から楽しみにしています。

（石）

♡ロケーションが最高

久しぶりに皆様のお顔を見て嬉しく思います。一人ではなかなか来られないところをご紹介くださいませ、ありがとうございます

いました。また、来年もよろしくお願いたします。  
山本鈴子

♡「思い出」の点検を

「思い出」について何か書こうとしても、その「思い出」が多すぎて困ります。まあ、それだけ長い時間を生きてきた証でもありますが…。

でも、「思い出」のほとんどが、楽しかったことや感動したことばかりなんです。悲しかったことや辛かったことの「思い出」が少ないのは、経験が少ないからではなく、自分自身が封印をしているのかもしれない。記憶のすべてが「思い出」に変わる訳ではなく、無意識のうちに選択をし、自分に都合良く加工をしているのでしょね。とは言え、良い「思い出」も悪い「思い出」も、どれも「思い出」には違いありません。ただ、本当に思い出せなくなってしまう「思い出」は、悲しいと思います。

人生をレースに例えるなら、死という見えないゴールに向かって走っているようなものです。ゴールはずっと先かもしれないし、すぐ目の前に迫っているのかもしれない

せん。ただ、後ろを振り返ると、「思い出」という景色が見えるはずです。どれもこれも大切な「思い出」です。でも、本当に憶えていますか？ 子供の頃よく遊んだ公園の風景。昔の友人や恋人の顔。全部思い出せますか？ 忘れたと意識できる「思い出」なら、まだ幸せな方です。本当に忘れてしまえば、それもできないのですから。古いレコードやCDを聴くと、昔のことを思い出すことができます。古い物を捨てずに残しておきたいと願うのも、「思い出」を思い出するための手助けになるからでしょうね。年末に荷物の整理をしながら、そんなことを思いました。うえひら☆ゆきお



## 感

## 謝



カンパ・はがき・日めくり・電話帳などの寄贈ありがとうございました。

石原栄（大阪義肢装具センター）、今西美奈子、太田博、岡賀寿子、澤田妙子、杉山葛枝、T・R、長島伊津子、野田玲子、東百合子、松田峯子、宮崎徹朗、森芳江、山本敏子、その他の方々。

### アメリカからメリークリスマス

親愛なる慶子様

皆様、お元気でお過ごしのことと思います。こちらでは雪が降っています。大雪ではないのですが、とても寒いです。今年の冬は、雪は多くはないものの、とても寒くなるとのこと。ジェラミアは大学近くの家に移りました。コンピューターの勉強をしています。16になるシーズンは、バスケットボールをしていて、成績の方も上々です。ゲアと私は、元気です。キッチンとコンピューターの部屋と私の部屋の改装も終わりました。メリー クリスマス。そして新しい年が健康で幸せに満ちた年でありますように。

トラッキーの家族より

(訳：林正弘)

### 韓国からメリークリスマス

富田慶子様

皆様いかがお過ごしですか？

こちらはみな元気です。

長い間お便りできずにすみません。

4月以降、調子の悪い日が続いていました。そして、絵はがきと雪人形と財布を送ってくださりまして、ありがとうございました。

韓国の伝統の「ノリガエ」とワールドカップのスカーフを送ります。気に入っていただければ幸いです。またお便りします。

メリークリスマス、そして新年おめでとうございます。

2002年12月16日

あなたの友人 馬 泰植

(訳：林 正弘)

## 誰でも参加できる場所へ

## 第 8 回

コミュニティガーデンほけつと  
(大阪府阪南市) について

林 典生

前回は日本におけるコミュニティガーデンを紹介しましたが、今回からは大阪府下にあるコミュニティガーデンを中心に実践現場を紹介していきます。今回は知的障害者の方々が日々活躍しているコミュニティガーデンとして大阪府阪南市にあるコミュニティガーデンほけつとをご紹介します。

このガーデンは小規模作業所のほけつとが設置・運営しているガーデンで、ほけつとはクッキーの製造販売や内職作業以外にコミュニティガーデン活動を行っている。

このガーデンはある地域住民の呼びかけに

応じて、阪南市福祉課、阪南市社会福祉協議会の協力の下で、社会福祉協議会が所有していた福祉農園を基盤に、阪南市のほけつとが主体で障害者の社会参加の場や及び地域の人たちとの交流の場として知的障害者でも参加できるように考えられたコミュニティガーデンであり、約1000平方メートルの面積を有している。

元々は阪南市の社会福祉協議会が設置した福祉農園であったものを設置の段階から近所や社会福祉協議会による花の苗や廃材等の寄付を受けたたり、ボランティア団体が主体となつて手作りして木製の東屋(あずまや)：雨よけの付いている休憩できる場所)や作業小屋等を作っていたりして行ってきた。

そして1998年7月22日に完成して開園式に50人が参加した。毎週曜日を決めて、知的障害者も含む利用者が集まって園芸活動を行っている。現在は地域住民も集まりバーベキュー大会を開いたり、幼稚園と一緒に綿やケナフという麻及びサツマイモを収穫する活動を行っている。

地域でのお祭りの時や地域住民に切り花や

収穫物をプレゼント用に販売を行っているとともに、作業所で作成しているクッキーと一緒にコーヒーが飲める喫茶店を開いている。また「育苗の学習」、「お花で遊ぼう会」、小・中学校の授業及び国際交流の場にも活用されており、特にガーデンを舞台とした、地域住民と一体になったクリスマスコンサートがこの地域の年中行事にすっかり定着している。

最初の時に障害者の方々と一緒に日常的に活動参加してくださるサポートメンバーが少ないことが心配されていたが、今は20名ほどのサポーターグループが曜日別に2つあり、活動は資金面等で苦労している状況であるが、今後障害者の自立参加につながるかどうかを考えていくと今後も続けていきたいとの意志があるとのこと。

今回は元々幼稚園であったコミュニティセンターを拠点にしている大阪府吹田市のグリーンボランティアさくらそうで行われているコミュニティガーデン活動の現状について紹介しますので、お楽しみにしてください。

## ★夕陽の沈むとき



「あ、お月さまだ」と、あと一月で三歳になる私の息子が西の空を指差して言う。

「あれはお月さまじゃない。あれは夕

陽。ほら見ていてごらん、沈んでいくよ」。私はそう言うと、子どもの小さな両肩に手を添えて、そつと後ろからしゃがんだ。そして、子どもの頬のそばから赤く照らされた低い空を眺めていた。

おまえが、まだ赤ん坊のときも一緒にこうやって何度か夕陽を見ていたのだよ。しかし、きつとこれが、おまえが生まれて初めて見る日没なのだ。

生き始めたばかりのおまえと違って、父さんはもう何度も夕陽を見てきた。小学生のときには涙を腕でぬぐいながら、夕焼けに照らされた田んぼのあぜ道を歩いたことがある。中学のときは、暮れかかる陽の光に紅（べに）をさされた少女の横顔に心を奪われた。高校時代は、ときおり小高い丘のうえから一人で西の空を見ていた。働き始めたころ、美しい夕陽に部屋全体が真っ赤になり、同僚と驚きの声をあげたことがある。

おまえが生まれて間もないころにも、夕陽は輝いていた。産院におまえと母さんを残し、父さんはおじいさんとおばさんと一緒にタクシーで帰った。広い田畑を通り抜けるその道には夕陽をさえぎるものは何もなくて、静かで喜びの満ちた車内は赤く染まっていたのだよ。

そのとき、おまえのおばあさんは「順番だね、みんな順番だ」と独り言のように繰り返した。誰かが死んだとき、生まれたときに言う、おばあさんの口癖だった。年離れた人が死んでいく一方で、生まれてくる子どもがいる。おまえが大きくなるまで生きていられるだろうかと思つたのだらう。父さんは、おじいさんとおばあさんとの別れの日にも、やはり同じような夕陽を見るにちがいないと考えていた。

父さんが最後に見る夕陽も、こんなふうにおまえと眺めることができたらい

と思う。もし、そうすることができたら、父さんはきつと、おまえが生まれてきたことを感謝しながら、たくましくなったその肩に再び手を添えることだろう。

夕陽がどんなに美しくても、それは闇の始まりにすぎない。だから見るたびに父さんは、どことなく切なく寂しくなる。巨大な大地の何百倍もの大きさの太陽は、昼間は強く輝き、人に瞬時たりとも見ることすら許さない。その神々しいまでの光が日暮れになれば暗くなり、その輪郭さえ見ることができ、小さな木立やみすばらしい建物にさえ隠れてしまう。だから夕陽は衰えや別れを連想させてしまうのだ。

小さなおまえも、これから何度となく夕陽を見ることだろう。父さんが見てきた回数よりも、おまえはもつと多く見ることができましように。

そして、おまえもまた子どもの頬から夕陽を眺め、果てしの無い鎖のようにつながった命の流れに触れることができましように。  
(知)

## 新年を迎えて

赤、黄、緑など色とりどりのお花を眺めていると、どこからともなく美しい音色の音楽が聞こえてくる。何の曲だろう？ としばらく考えていると、パツと目が覚めた。元旦の朝である。

2003年という新しい年を迎えたのだ。何回迎えても元旦の朝はすがすがしい。

さて話は違うが、毎月、受診している病院の主治医の0先生から「稲垣さん、パソコンをしないさい。エッセイや絵本を書いているのだから、それをインターネットのホームページで紹介して、多くの人に読んでもらいなさい」と言われたのが、今年の10月頃だった。実は電気や機械に弱い私は、パソコンをする気は全くなかった。でも0先生に言われ

## 晴れのち晴れ

(52)

稲垣 恵雄

てから悩んだり、迷ったりしたが、結局パソコンを始めることにした。それで暮れも押しせまったある日、某でんき店で今、はやりの液晶パソコンを購入したのである。

それから毎日のように友人に電話で聞いたり、わが家へ来てくれるヘルパーさんに教わりながらパソコンのキーボードを打ったり、マウスを動かしたりしているのだが、遅々として進まない。

ともかく急がずにまず友人にメールを送れるようになりたい。そのあと0先生の言われたようにホームページを開設して自分の作品を紹介していきたいと思っている。これを新年の細やかな目標にした。そしてお花畑で楽しい音楽を聞いていた夢を元旦の夜も引き続いて見たいものと念じている。



桃栗3年、  
柿8年、  
サロン・あべのは  
2000号

・・・ということ、みなさまから寄せられたいろいろなお話に加えて、サロン紙にまつわるあんな事、こんな話も、ごいっしょに。

「サロンひらの」の  
おいたち

サロンひらの坂口 登

皆様、はじめまして。「サロンひらの」です。(サロン・あべの)さんから依頼があり、書くことになりましたが、何をどう書いて良いのかと悩んで、やっと出来上がりました。まず、現在(平成14年12月)代表の坂口登のサロンの話です。

サロンを立ち上げるときに、ボランティア・ビューローコーディネーターの大西尚子さん、現在、生野区役所勤務の中村さん、「長居何でも相談センター」代表理事の山浦さんたちに助けをいただきながら、サロン運営をしてきました。ビール工場・パン工場見学やカラオケなどの企画・体験をしました。ある時は、ボランティア講習会で知り合った小・中学校の子供たちがサロン

に参加してくれました。これまでの3年間にたくさんの人たちと関わり、サポートしてもらいながら、何とかやってこれたと思います。

来年からは代表が替わりますが、代表をサポートしながら、これからのサロン運営に関わっていきたいと思います。



これからの  
「サロンひらの」

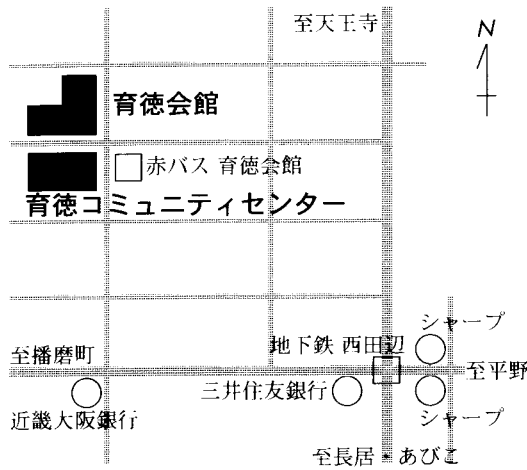
サロンひらの 高橋久子

続いて来年(平成15年)から代表の高橋です。1年間「サロンひらの」で会計をし

**お知らせ**

**<サロン・あべの> 2月の出会い**

内 容…「書」の魅力  
 ーサロン紙表題を書いてー  
 お客さま…中西利香  
 <サロン・あべの>運営委員  
 日 時…2月15日(土)午後1時~4時  
 場 所…育徳コミュニティセンター2階  
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)  
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28  
 TEL. 06-6621-1901  
 最寄り駅= 地下鉄御堂筋線「西田辺」  
 赤バス「育徳会館」下車すぐ  
 会 費…なし  
 問い合わせ先…  
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



ていました。代表を交替する話が出たときには、荷が重く不安でしたが、自分の考え・やり方を少しづつ受け入れてもらうことが出来るなら良いかな? と思い引き受けました。これから、前代表+私+参加者で、元気で楽しく、他区サロンとの交流など、いろいろとチャレンジしたいと思います。楽しいこと大好きな私ともども「サロンひらの」をよろしく。

生まれて20数年にわたり、家で寝たきり

**開こう日溜まりの扉**

てくてく・すみよし

代表 土井俊次

の生活を送っていた私が、現在の「てくてく・すみよし」の前身ともいえる「お出かけサークルてくてく」のサロン活動を、住吉ボランティアビューローの方から、お引き受けしたのは今から7年前のことでした。

当時の私の毎日は、夜間中学に通いながら、電動車いすサッカークラブの活動に励んでいました。でも、子供の頃から、自分で植え付けてしまってきた、自分だけの世界というものがいつも心を縛り付けているため、集団生活や団体活動は現代でも大の苦手です。

なら、そんな私がどうしてこのような外出交流を主としたサロン活動の代表といった、大役をお引き受けする結果になったのかといいますと、その頃、自分のそれまでの気持ちとは裏腹に、もう



## ●200号 あんな事、こんな話——目的

「サロン・あべの」紙が第1号を発行したのは、昭和61年7月でした。手書きから始まり、ワープロ打ちで活字のB5の冊子になるのに時間はかかりませんでした。翌年の昭和62年に大阪府社会福祉協議会主催の福祉広報紙コンクールに初応募して、初入賞しました。その後、毎年福祉広報紙コンクールに参加しました。応募するサロン紙は、前年度に発行したサロン紙の中から2種類選ぶのですが、委員方でその候補紙を選ぶのも楽しいものでした。委員方の関心や興味が感性と共にかいま見えて個性を再発見することもありました。府下の社会福祉協議会が発行する広報紙なども応募しているわけですから、発行部数何万という中でサロン紙は当時300部そこそこ。発行部数や資金力などでとても足元に及ばない周囲の状況がありましたが、あまり気にも留めず6年間応募し続けていました。その間、入賞だけでなく「優秀賞」「優良賞」なども受賞し続けていましたが、ある時、誰かが「もうえんちゃう、もらうた額やトロフィーを飾る所もないしー」といった言葉にはっと気がつきました。サロン紙は優劣を競うために発行しているのではない、1人でも多くの方に読んでいただき、サロン活動を知っていただくことが目的。そのために読みやすいサロン紙の編集を心がければいいということ。

一つの新たな心が芽生え始めてきていたのです。

自分はこれまでボランティアの方たちやヘルパーのみなさま、それに自分の家族といった多くの人たちに、お世話になりながら生きてきていますが、きつとこんな私にも何かみなさんのお役に立つことがあるはずだと思い、ビューローの方たちをお願いをして探してもらっていました。

そんなとき、住吉ボランティアビューロ

ーの初めての企画として外出交流会が開かれることになり、その実行委員の中にこの

私も選んでいただけたことが、私のサロン活動への第1歩でした。その頃の私はサロン活動という言葉の存在さえまったく無縁のものでした。

しかし、2度目の交流会からは、企画から実行までのすべてをこの私に任せられました。

でも、この最初の扉を開くときは、かな

り勇気がいりました。そして、その扉を自分の手で開いてみると、その扉の向こうにはこれまでの自分だけの世界では決して味わえなかった、とても温かな、まるで春の日溜まりのような世界が広がっていました。

そして、今、私はその春の日溜まりの中にすっかり浸り込んでしまっている今日この頃です。

# 植物あれこれ 第四十八回

山口康二郎

日本の自然

時の経つのは早いもの、と、よくいわれ  
ますが、富田さんや編集長の口車に乗つ  
て、数回の連載のつもりで引き受けた本  
稿が丸4年経ってしまいました。定年にな  
って始めたいわば趣味に近い園芸の知  
識では、せいぜい4、5回が限界と気楽に  
安請け合いましたのがきっかけでした。  
ちょうど、日本最初の樹医である山野忠  
彦先生の知己を得て、植物に惹かれ始め  
ていたときでした。樹木再生を見事にや  
り遂げられた先生に、幸いにも教えを受  
けることが出来た、その感激の一部でも  
報ぜられたらという思いがあったからか  
も知れませんが。

その山野先生から学んだ一つに、「自然  
も守らなければ壊れる」という言葉があ  
ります。その言葉が年々強く感じられる  
ようになってきました。「日本は世界の先  
進国の中では最も自然豊富な国です」と  
いうと、「ホント？」という人が多い。  
自然とは人為の加わっていない所とい  
うことですが、日本では「自然いっぱい」  
という「緑いっぱい」と同義語に使われ  
ています。その理由は日本では人為が加  
わっていない所には、大抵「緑」があるか  
らだといわれています。  
エスキモー人の住む所は「自然がいつ  
ぱい」ですが、「緑いっぱい」ではありま  
せん。  
ドイツの小学生は自分の国の樹木の名  
前を全部覚えているといわれます。調べ  
てみると、ドイツの高木は20種類くら  
いしかないのです。日本には高木だけで6  
00種類もあるといわれています。ドイ  
ツと比べると日本は数十倍自然が豊富だ  
といえます。自然の豊富さは植物の量で

はなく、種類数でみなければなりません。

日本の植物の種類が多いのは、暖かい  
季節に雨が多いからです。しかし、今日本  
の森にいろいろな異変が起きているので  
はないか、と、思わせる出来事がありま  
す。神戸の猪を始め、本来山深く住むはず  
の動物が里に現れるのは自然の何かの危  
険信号でなければよいのですが・・・。

「自然を守ること」は「緑をふやすこ  
と」。今年もよろしく願います。



# 美智子のこんな話

岸田美智子

「脱施設化」ってほんと?!

新しい年がスタートしましたが、今年  
は私達障害者の生活を大きく左右する支  
援費制度も4月から始まります。

この支援費制度は、障害者の自己決定・  
自己選択を保障し、福祉サービスを選べ  
るようにしようとするための、行政処分  
的な措置制度からの大転換になるはずで  
す。そのような時期にあわせたように、昨  
年の12月に厚生労働省から知的障害者の  
政策について画期的な脱施設化の方針が  
打ち出されました。この記事は昨年12  
月8日の朝日新聞の朝刊の第1面に掲載

されました。この記事を見た瞬間、私ほと  
ても驚きました。やっと多くの仲間の障  
害者の生き方を奪ってきた閉鎖的な入所  
施設が確実に減ってゆくんだなあと感動

した反面、これは厚生労働省の責任放棄  
につながるのではないかと、とても心配  
になってしまいました。きつと箱ものを  
つくる施設建設には金がかかりすぎる、  
地域でやっていってももらえるのなら、そ  
の方が経費が削減できるだろうという考  
え方がみえみえだと思われまます。その証  
拠に支援費制度の中で、入所施設のサー  
ビス基準において追加されたものは、退  
所時特別支援加算といい、入所中に1回  
を限度としてたったの10700円と退  
所後、30日以内に相談援助を行った場合、  
これも1回を限度として10700円ポ  
ツキリとなっています。このように信じ  
られない予算の低さの中のどこに入所施  
設をなくしていく考え方が反映されてい  
るのでしようか？ 今後の地域福祉サー  
ビスの予算のあり方を抜本的に見直さな  
い限り、「脱施設化」は単なる行政の責任  
のなれにつながっていくことが大いに懸  
念されます。

新しい支援費制度が始まる、慌ただし  
この時期にこそ私達もしっかり障害者施策

## 知的障害者地域へ

### 政府、「脱施設」に政策転換

政府は、知的障害者の「脱施設化」を推進しているが、日本  
政策について現在の施設では約46万人の知的障害者  
入所中心から地域の中で生活する「脱施設」に転換する方針を固めた。こ  
れまで施設を増やしてきたが、03年度から5年間  
の「新障害プラン」では新たな入所施設建設の  
数値目標を盛り込まない方針だ。地域での新たな受け皿として、障害者が  
少人数で生活するグループホームの拡充も検討さ  
れている。

03年度から10年間の障  
害者政策の基本方針を示す「新障害者基本計画」  
では、「本人の意向を尊重し、入所者の地域生活  
への移行を促進する」「入所施設は本当に必要な  
ものに限定する」などと  
して脱施設化の方針を打ち出さ方向だ。12月中旬に閣  
議決定される。近年、障害者や家族が  
多くの先進国では脱施設  
から「社会で普通に生活  
する」ことを目指している。  
現在の障害者プラン  
では約13万人が施設  
暮らし、その多くが10  
年以上の長期入所だ。  
06・02年度は、障害  
者のない人と同じように社  
会の一員として暮らす  
「フーマライゼーション」  
の理念掲げているが、  
千人分の知的障害者入所  
施設の数値目標を立て、  
建設を進めてきた。  
厚生労働省は新プラン  
で数値目標を設けないこ  
とについて、「施設を今  
後一切造らない」とい  
うわけではないが、目標を掲  
げて整備を促進すること  
は「フーマライゼーション」  
の理念を棄てる可能性がある  
としている。新プラン  
は12月中に決定される。  
近年、障害者や家族が  
多くの先進国では脱施設  
から「社会で普通に生活  
する」ことを目指している。

のあり方を見抜いていきたいものです。

○自立生活センター

MY・D・O・まいど〜 (岸田)

大阪市住吉区長居西一丁目九一三二

TEL〇六一六六〇九一三二二三三

FAX〇六一六六〇九一三二二二〇〇

E-mail

cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

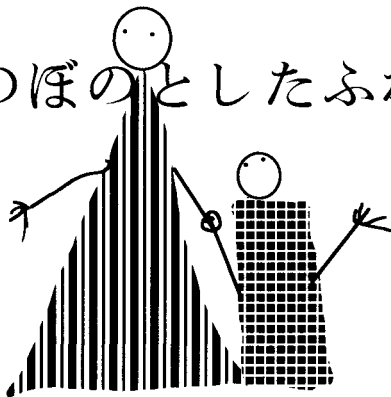
平成14年12月10日(火)午後2時より、阿倍野区民センター2階にある阿倍野図書館で、磯村市長と話をす  
る「ふれあいトーク『あすのおおさか』」の席が設けられました。これは、市内各区内で地域活動をしているグループと市長が親しく話をし、日ごろ感じている提言やそこから生じる要望などを伝えるという主旨の席でした。各区持ち回りで、3〜4年に1度訪れる機会だそうです。今回の「ふれあいトーク『あすのおおさか』」には、阿倍野区内で活動している5グループが参加しました。この日は、阿倍野区保健栄養推進協議会の大和田弓子さん(会長)より「生活習慣を見直し、活力ある街『すこやか大阪』

**「ふれあいトーク」に参加しました**

の実現をめざして、また阿倍野区生涯学習推進員連絡会の糸井道子さん(代表)は「学びの場・育ち合いの場から」、また阿倍野区ユース・リーダーの向井洋祐さんは「子どもたちからのメッセージ」を、またあべの子育て支援地域ネットワーク(こももネット)の中谷邦子さん(代表)は「世代間交流の輪が広がるスペースの実現を」と、そして(サロン・あべの)は「出合い・ふれあい・助け合い」の基本理念で続けてきたサロン活動を富田慶子(事務局)が話しました。各グループから四、五名の出席があり、サロンからは辻本輝子・中西利香・久木浩・富田慶子の4名が出席。いつもと違う雰囲気を感じた中、5グループの提言や要望がいつの日か実現することを希いながら、地域活動を支える人たちの熱い思いを感じました。

(け)

ほのぼのとしたふれあい、いかがです。



これは便利。  
**一筆箋**  
1冊100枚綴 ¥150-

<サロン・あべの>の活動資金調製にご協力ください。



## サロン隣組ニュース

### ■「サロン淀川」2月の出会い

日時:2月16日(日)午後1時30分~4時

場所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容:元気で元気な障害者で行こう

~そんなにかんばらないで力を抜いて生きようよ

サラリーマンが目にしみる窪田氏との一問一答~

パネラー:曾根利弘氏(サロンつるみ)と

窪田新一氏(サロン淀川)

会費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:soraji@irisecnet.ne.jp

### ■「サロン・ひらの」2月の出会い

日時:2月22日(土)午後1時30分~4時

場所:にこにこセンター

大阪市平野区平野2-1-30

内容:21世紀 これからのリハビリテーション

パネラー:伊藤成子氏(八尾リハビリテーション病院看護部長)

会費:500円

問い合わせ先:高橋☎090-4497-0635

☎06-6795-2200

### ■「サロン・にし」2月の出会い

日時:2月8日(土)午後1時30分~4時

場所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容:みんなで春の歌をうたおう!

会費:なし

問い合わせ先:関口☎090-4281-5641

### ■「サロン・にしよど」2月の出会い

日時:2月22日(土)午後1時30分~3時30分

場所:西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」

大阪市西淀川区千舟2-7-7

内容:未定

会費:なし

問い合わせ先:西淀川区在宅サービスセンター

緒方☎06-6478-2941

### ■「サロン『アイ』」2月の出会い

日時:2月15日(土)午後1時30分~4時

場所:生野在宅サービスセンター

「おまちやま」2階ボランティアルーム

大阪市生野区勝山北3-13-20

内容:トーク&ライブ

パネラー:ハルシオン

会費:なし

問い合わせ先:生野区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6712-3101

### ■《てくてく・すみよし》2月の出会い

日時:2月11日(火・祝日)午後1時~4時

内容:さくっと茶話会

ゲスト:教育福祉支援事業所

代表:城谷ひばり(しのびなま)氏

副代表:河野八十八(こうのやそや)氏

場所:あびさん作業所(住吉区我孫子3丁目10-16)

会費:500円

申し込み締め切り:当日まで

申し込み・問い合わせ先:

山本篤江☎06-6692-8411 携帯☎090-5168-5977

### ■「サロンつるみ」2月の出会い

日時:2月2日(土)午後1時30分~4時

場所:鶴見会館2階

大阪市鶴見区横堤5-5-51

(地下鉄鶴見緑地線横堤駅5番出口)

内容:中国語との出会い~中国への旅行を通じて~

(中国語の初歩も学びます)

パネラー:田原裕会氏

会費:なし

問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村☎06-6913-7070

### ■「サロンいたみ」2月は休みです。

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第198号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第198号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)

- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田 ☎06・6691・1028 まで。

FROM EDITOR 編集後記

サロン紙は次で200号になります。(け)さんに、サロン紙にまつわる「あんな事、こんな話」をいろいろ書いてもらっていますが、そもそも「サロン紙は1人でもたくさんの人に読んでもらい、サロン活動を知ってもらいたい」という思いから、最初発行したのです。これですよ。これ。原点を忘れたらあきません。。ちなみに、今年の漢字は「帰」でしたね。(石)

〈サロン・あべの〉Vol.199 発行：平成15(2003)年1月18日 定価¥100  
 編集人：〈サロン・あべの〉運営委員会 表題：井上憲一・筆 文中イラスト：石田美禰子  
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方 〈サロン・あべの〉  
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941  
 印刷：セルフ社〒546-0044 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2階 TEL06-6719-8212

一九九二年九月一日第三種郵便物認可(毎日発行)